

## 「木の葉化石(2)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

木の葉化石を原石から探し出す活動を、6年生の子どもたちは、とても楽しみにしてくれていた。前の日から「先生、明日は化石掘りだよね!」とワクワクしている。正確には「化石割り」だが……。持ち物として指示しておいたのは以下の4つだ。

- ・マイナスドライバー
- ・小さなハンマー、またはトンカチ
- ・新聞紙 ・軍手 ・化石を持ち帰る袋



ドライバーはあまり大きなものでないほうが良い。たたく時も「力任せ」にガンガンたたくのは良くない。同じ層を数か所たたいて、層理の隙間を少しずつ広げてゆくのが、最も確実なようだ。このコツは、実習前に子どもたちの前で演示しておくが良い。軍手はあったほうが良いのだが、素手のほうが、原石が割れた感覚が、指先に伝わりやすい。



まずは「原石選び」からスタート。舌切り雀のおばあさんと同じで、大きいものが良い……。とは限らない。中には、すでに表面や剥離面に、木の葉の化石が見えているものもある。コツは、横から見て、層理の中に黒っぽい筋がたくさん見える原石を選ぶことだ。その黒っぽい筋が、化石層である可能性が高い。

作業中に、細かい石の破片(シルト状の破片)がたくさん出るので、新聞紙を敷いて作業をする。新聞紙は、周囲を折って、簡単な箱状にしておくとなお良い。

原石から化石を探すには、層理面に沿って平行にマイナスドライバーを当て、ハンマーでたたく。「原石を割る」というよりは、「衝撃を与えて、層理に隙間をつくる」という感覚だ。うまくやると、白雲母をはがすように、気持ちよく平行に剥がれる。地球の歴史の本のページをめくる感覚だ。



勘のいい子どもは、作業開始後数分で、もう最初の化石を見つけ出す。これはハンノキの化石のようだ。よく見ると、周囲のゴミのように見える小片も、すべて化石である。モミの葉の一片、葉脈だけ残った樹木の葉、松の葉なども混ざっている。他にもどんな化石が出たか……。お楽しみに。(つづく)